

一満洲旅行談

講師 矢部理學士

一燈臺ノ話

會員 金子みや

一硫黃島

講師 脇水理學士

一マルサスノ人口論

會員 青山秀

本年夏季休業中會員諸氏ノ上京ヲ機トシ理科懇親會ヲ開キシガ出席セラレシ方々ニハ即チ左ノ如シ

中川校長、岩川、平田、森、西村ノ四教授近藤、竹島ノ二教諭乙部講師遠山、保井ノ二助教授及飯盛挺造先生ナリ

會員トシテハ即チ左ノ如シ

大長谷川タメ	大森くに	松岡よし女	山本けい
松本てる	清野きよの	本間せん	佐藤とき
佐々木まさ	石川ふさ	黒田ちか	山田きよの
小高くわ	池田とよ	成田壽	小林たか
鎌目よし	小島みな	山崎いろ	原たく
手鈴木ざん	小島よしの		

當日中川校長岩川教授ノ演説ノ大要左ノ如シ

雜報

理科懇親會に於いて爲せる中川校長の演説

(言責は記者にあり)

今日は別に陳べようと腹案もありませんが、唯今岩川氏より述べられたる御挨拶によりて、餘義なく立たされたのであります。即ち校長が此の席に臨まれたのは本會の光榮であると述べられましたが、斯かる會合に出席するを得ましたのは私に取りて榮譽と存ずるのであります。

會員諸君の多くの方々には初対面の人が多い、其の私が今般高嶺先生の跡を繼いて校長の職を汚すことに成りましたに就ては、斯くの如き席上に於いても、又各個人に就きてても好機會のある毎に屢々申し述べたる如く、本校の發展上に關しては事の大小を問はず、善惡に拘らず、口頭なり、書面なりに依りて御意見を發表せられんことを切望するのであります。

本校の現狀に就いては、大した變革を要することもないと存じますが、世の趨勢は一日も片時も進歩する一方でありますれば、本校もこれに應じて相當の改良をしなければなりません。世の進歩に遅れぬように努力して居りますが、微力の私なれば諸君の御助力に依りてどぶか此の責任を完うしたいものと存じて居ります。

然れば本校の事に關しては善き事は諸君と共に喜び、惡しきことがあらば又憂を共にしたいと思ひます。茲に一つ諸君と共に喜ぶべきことは先般北陸諸縣へ出張せられた岩川教授の報告に依りて知りました一事であります。本年の卒業生にて富山縣の女子師範に赴任せられた由雄なを子といふがあります、所が文部省にて數學の視察を囑託せられて居る波木井三九郎君は私の友人にて學識共に高く、唯今は仙臺の第二臨教員養成所の主事を致して居ります。全氏は怡度岩川教授の數日前に富山に行かれ、由雄氏の數學の授業を見られ、授業の巧なるを大に賞讃せられたのみならず、學識も豊富にあるように見受けたといふことて校長始め縣廳でも非常に喜んで居つたそうであります。私もこれを聞いて嬉しく存じて居りました所へ、過日波木井氏は學校へ私を訪れ、由雄氏の授業は男子の教員も及ばぬ程巧であつて學力も豊富と鑑定したが、在學中の成績は如何であつたか、自分の鑑定の當否を試しに參つたといふことであります。怡度森先生も見えられましたから、共に在來の成績表などを調べました所、果して各科の成績も良く、附屬校の授業成績の如きは最も優等な方であります。波木井氏も自分の鑑定の誤らざりしことを認め、大に満足して歸られた次第であります。

惡ひ事は秘して善い事のみを伏聽する譯ではありません、惡ひこともあらば自然學校へも傳はりて参りますから、善事を伏聽して喜を頗つと共に他日悪いことを御聽に達して憂を共にする場

合があるやも圖られませぬ。何卒今日の如き會合が屢々催ふさるるやうに希望致します。

明治四十三年七月理科懇親會の席上に於いて

岩 川 客 員

炎暑の候、心身共に健全にして本日母校の一堂に會し、會員互に久闊を陳ぶることを得ましたのは、眞に悦ばしき次第であります。平素の御無沙汰は、御同然のことにて夫々多忙の職務に從事する身なれば、互に恕さなければなりません。本日會合せられたる諸君の中には、講習を受けんがために遙々と地方より出京せられた方もありまして、是等の諸君に向つては特に御苦勞に存じます。

此の頃、私は本校の命に依り、北陸地方の女學校參觀に参りました。其の際、夫の越中富山に有名なる製藥會社廣貫堂に調劑事業を一覽しましたが、聞きしに優る盛大なものにて昔は一粒の丸薬をも掌で丸めたものを今は電動力にて色々の器械を用ひ、一時に數百粒の丸薬を造り、夫よりこれを干し、金銀箔を塗つて紙に包み、袋に入れて證券印紙を貼る迄には、夫々分業的に數十人の手を経るのであります。此の薬の効能如何は追究すべき必要もありませんが、一年の生産額は海外輸出額をも併せて約一百八十萬圓に上り、これを一廳三府四十三縣の内地を始めとし、臺灣、樺太、清國、朝鮮、米國及び南洋諸島に至る迄賣り弘むるのは、古來行商販賣法に依る由にて、行商員は一千五百名程あると言ひます。此の行商員は、年々一定の時期に臨み、藥劑仕入の